



ME-BYO サミット

神奈川 2016

ME-BYO Summit Kanagawa 2016

開催記録

ME-BYO サミット神奈川 実行委員会

ME-BYO Summit Kanagawa Executive Committee

ME-BYO サミット神奈川 2016 開催記録

ME-BYOワークショップ 「行動変革の促進と新しい社会システムの形成に向けて」	3
■会期 平成28年10月13日(木) ■会場 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 3Fパシフィック	
未病産業フォーラム 「神奈川発『ME-BYOテック』の実現に向けて」	7
■会期 平成28年10月14日(金) ■会場 パシフィコ横浜 アネックスホール 2F F205-206	
ME-BYO Japan 2016	10
■会期 平成28年10月12日(水)~14日(金) ■会場 パシフィコ横浜 展示ホール	
未病月間の取組み	12
What's "ME-BYO(未病)"?	13
What's ME-BYO BRAND?	14
マイME-BYOカルテ	15
未病サミット神奈川宣言	15

主催	ME-BYO サミット 神奈川実行委員会	名誉実行委員長	神奈川県 知事	黒岩 祐治
		名誉顧問	横浜市 市長	林 文子
		実行委員長	国立研究開発法人理化学研究所 理事	松本 洋一郎
		副実行委員長	箱根町 町長	山口 昇士
			神奈川県 副知事	中島 正信
		監事	横須賀市 市長	吉田 雄人
			小田原市 市長	加藤 憲一
			大和市 市長	大木 哲
		実行委員 行政	南足柄市 市長	加藤 修平
			中井町 町長	杉山 祐一
			大井町 町長	間宮 恒行
			松田町 町長	本山 博幸
			山北町 町長	湯川 裕司
			開成町 町長	府川 裕一
			真鶴町 町長	宇賀 一章
湯河原町 町長	富田 幸宏			
アカデミア(大学・団体)	横浜国立大学 学長		長谷部 勇一	
	神奈川県立保健福祉大学 学長		中村 丁次	
	横浜市立大学 学長		窪田 吉信	
	慶應義塾大学 経済学部教授		塩澤 修平	
企業	東海大学 学長	山田 清志		
	横浜薬科大学 学長	江崎 玲於奈		
	(一財)バイオインダストリー協会 専務理事	塚本 芳昭		
	味の素(株) 取締役常務執行役員	木村 毅		
	富士フイルム(株) 取締役副社長	戸田 雄三		
アドバイザーメンバー	イオンリテール(株) 特別顧問	梅本 和典		
	アレックス(株) 代表取締役社長	辻野 晃一郎		
後援	内閣府 文部科学省 厚生労働省 農林水産省	経済産業省	神奈川新聞社	
		公益社団法人神奈川県医師会	読売新聞社	
		一般社団法人神奈川県歯科医師会	tvk (テレビ神奈川)	
		日本経済新聞社	一般財団法人バイオインダストリー協会	

ME-BYO ワークショップ 「行動変革の促進と新しい社会システムの形成に向けて」

開会挨拶 山口 昇士 箱根町長・副実行委員長



神奈川県は世界でも例を見ないほどのスピードで進む超高齢社会に直面しており、これまでの社会システムでは立ち行かないという危機感を共通して持っております。こうした大きな課題を乗り越えるために、昨年箱根で開かれたサミットにおいて、未病サミット神奈川宣言を世界に向けて発信しました。その後、未病というキーワードが広く周知されたと実感しております。さらに昨日からパシフィコ横浜で開催されているME-BYO Japanでも、未病産業がさらなる成長を期待できる分野であることを改めて感じたところです。

箱根町でも町立施設・森のふれあい館を拠点とする芦ノ湖周辺エリアが箱根芦ノ湖森林セラピー基地として認定

され、森林セラピーという新たな手段を活用し、自然に恵まれた箱根で科学的なエビデンスに裏付けられた森林の癒し効果を体験しながら、一歩踏み込んだ健康を意識してもらえよう取り組んでまいりたいと思います。

サミット宣言で提起された行動変革、エビデンスの確立、新たな社会システムの形成という3つの課題に対し、県民にしっかりとその成果を届けるため、具体的な取組みを神奈川モデルとして提示し、全国に発信していくよう、各界の有識者の皆様より貴重なご意見を賜り、本日のワークショップが盛会のうちに終わりますことを祈念いたします。

基調講演 黒岩 祐治 神奈川県知事



未病とは健康と病気の間であり、何となく調子がいいな、具合が悪いなど、行ったり来たりしている状況です。病気と健康の明確な色分けから未病のグラデーションモデルへ——この変革が、実は大きな大きな変革につながっていきます。

未病を改善するために大事なものは、食・運動・社会参加です。高齢者になり足腰が弱ってくると、だんだん外に出なくなり、孤立する。するとどんどん具合が悪くなっていく。社会とつながっていることが、高齢者が元気になっていくために非常に大事なことです。

神奈川県は、未病を改善するための食・運動・社会参加というアプローチと、再生細胞医療やロボット技術、高度な医療の情報化といった最先端医療・最新技術の追求というアプローチを融合させています。健康寿命を延ばしていくことと新たな市場、産業の創出を進め、これをヘルスケア・ニューフロンティアと呼んでいます。

未病産業については現在開催しているME-BYO Japanの展示をご覧くださいとわかりますが、どんどん増えています。神奈川県の未病産業研究会に参加している企業は、もう400社を超えています。

例えばMIMOSYS®(PST(株))という技術は、声の分析によって心の未病がわかる技術です。アミノインデックス®(味の素(株))は、わずからミリリットルの採血からアミノ酸の分析によって、がんのリスクがわかります。トイレの中で尿の量や出方、ガスを分析してデータ化する技術も進んでいます。ウェアラブル

端末で日常のデータがどんどん蓄積されていきます。足腰が立たなくなった人や寝たきりの人も、ロボットスーツHAL®(湘南ロボケアセンター(株)・CYBERDYNE(株))を使って歩くトレーニングをすることで、未病が改善します。

慶應義塾大学SFCと合同で、さまざまな体の情報を集めるセンサーを埋め込んだ家(ME-BYOハウスラボ)を使い、各種情報のデータの見える化にも取り組んでいます。

電子母子手帳(マイME-BYOカルテ)も始めました。生まれたときから、その人のデータが全部電子化されて、つながっていく。マイME-BYOカルテは災害対策の視点からも、どんどん普及させていきたいと考えています。

未病コンセプトの国際展開も進んでおり、WHO(世界保健機関)も大きな関心を示しています。新しい人材も育てていかねばなりません。そこでいまメディカル・イノベーション・スクールをつくろうと準備を始めているところです。

100歳まで生きることが当たり前の時代になれば、そういう時代に対応する新しい社会システムが必要になります。働き方、学び方を含め、100歳時代に対応した人生設計図を描き、自分で自分の未病を知って改善していく。そうした新しい社会システム構築に向けて、具体的にどのように進めていくのか、来年の未病サミットに向けて、さらに練り上げていきたいと思っています。

「サミット宣言」実現に向けた取組み状況

山口 健太郎 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア推進統括官

昨年の未病サミット神奈川宣言で示された大きな枠組みの下、我々が取り組んできたのは、行動変革のきっかけを与える場の提供や正しい情報、具体的な技術・商品・サービスの提供です。またその基盤となる人材育成、ICTの活用、グローバルな展開に努め、そして持続性ある新たな社会システムをつくることで、最終的にはハッピーエイジングの実現を目指しています。

具体的には、行動変革に向けたアプローチとして、身体の状態をチェックできる未病センター等の場や機会を提供。個人の意識付けについては、健康リテラシーの向上、エビデンスの確立を大きな方向性とし、東大COIと連携した実証事

業にも取り組んでいます。

再生細胞医療の実用化に向けたライフ・イノベーション・センターも始動。グローバルな展開としては、13の地域と覚書を結ぶ形で、まずはプラットフォームを構築しています。

さらに、持続性ある社会システムの形成に向け、神奈川県全体が国家戦略特区に位置づけられているメリットを活用して、国に対しさまざまな提案を行っています。さまざまな課題もありますが、今後は、県内市町村や企業、個人をフィールドに、地域的な課題の解決を図る未病のソリューションを実証・評価する仕組みを構築し、成果を新しい社会システムにつなげていきたいと考えています。

特別講演 ダイアン・ウー 世界保健機関（WHO）エイジングアンドライフコース技術専門官



人生の後半期を迎えるに当たっては、健康が重要な要素になります。WHOによる健康の定義は、病気でないことだけでなく、身体的、精神的、そして社会的な安寧が完全にあり状態を指します。身体的には何か不自由があったり、あるいは慢性的な疾患があったとしても、精神的、あるいは社会的な安寧の状態が高いレベルで保たれていれば、健康だといえるのです。

健康には、皆さん一人ひとりに関連する要素と、環境という外部的な要素があり、両方とも非常に重要です。特に自分が重視していること、大切にしていることをする機能的な能力があるか、そうした能力を開発し、維持しているかどうか重要になってきます。

大切なことは5つ、1つ目が自分でトイレに行きたい、食事をしたい、シャワーを浴びたいという基本的なニーズです。2つ目は学んで、成長して、自分で意志決定をしたいということです。3つ目は人に頼らずに自分で動きたい、移動したいというもの。4つ目は新しい関係性を築きたい、現在の関係性を維持したいというもの。5つ目が社会に貢献していると感じたいというものです。

例えば歩くのが困難な人が移動という機能的な能力を達成するためには、歩くサポートとなる新しい技術や、都市計画を高齢者に優しい形につくること、健康を維持するための良好な医療システムといったものを、異なる分野の人たちが共に協力して構築していかなければなりません。

高齢者というのは一元的なものではなく、多様な人たちがいることをぜひ、理解していただきたい。その上で機能的な能力を維持できる形にするにはどうしたらいいかに焦点を

当てていただきたいのです。

そして、本当にいろいろな分野の方たちと共に協力をし合って、この高齢者の機能的な能力が維持できるようにする必要があります。

2010年に、高齢者に優しい都市とコミュニティのグローバルなネットワークができました。最初は33の都市でしたが、いまや332の都市が加盟しています。そして、すべての都市やコミュニティが関与できる、オンラインのデータベースを構築しています。

その中の例として、孤立した高齢者の人たちがカフェに集まり交流する場をつくった、オーストラリアのコミュニティなどが挙げられます。こういったタイプの取組みは世界中で行われています。それぞれの都市が取組みやプログラムをお互いに紹介し合い、学習していく中で、さらにお互いをサポートし、自分たちの取組みを構築していく、そういった場をつくっています。

高齢者自身が一番、自分たちのニーズは何かをよく知っています。高齢者というのは皆同じだという固定的な観念を取り去って、高齢者に聞き、彼らのニーズに合わせた形で取り組まなければいけないのです。その上でいろいろな分野の人たちが一緒に集まって協力をすることも重要です。神奈川県は、この点を非常にうまくやっていたらいいと思います。

そういった取組みを始めた場合には、次にそれを評価することが重要です。そして最後に、学んだ教訓をお互いに共有することで、他の人たちがそこから学べるようになります。こうした情報を是非皆様と共有したいと思っています。

パネルディスカッション

【モデレーター】

塩澤 修平

慶應義塾大学教授



個人の生き方・価値観に基づいた生き甲斐ある持続可能な社会を形成するには、まず各意志決定主体（個人、企業、自治体、政府など）の行動原理（目的・役割、手段、制約条件）を明確にし、最適かつ持続的に実現可能な手段を見出していかなければなりません。

これからは健康年齢の延伸が非常に重要で、新技術の有効利用も必要です。未病概念の活用により、個人は健康寿命の延伸や積極的な社会参加、企業はビジネスチャンスの拡大、政府、自治体は長期的に医療費や介護費の削減、産業創出、雇用増加が図れます。そのための課題、必要なシステムなどを議論していきたいと思っています。

【パネリスト】

大島 一博

内閣官房健康・医療戦略室次長兼まち・ひと・しごと創生本部事務局次長



健康・医療戦略室では健康寿命の延伸を目的に掲げ、医療・健康分野のイノベーションを進めています。1つ目は研究開発のイノベーション（創薬、医療機器、ゲノムなど）、2つ目に医療や介護の国際展開です。

3つ目の次世代ヘルスケアとは、公的保険外の医療介護サービスで、個人が健康に努力をする、それをバックアップする産業をつくっていきます。4つ目の医療のICTは医療情報を活用した創薬や治療の研究開発の促進に向けて、治療や検査データを幅広く集めて、安全に管理し、匿名化し、利用につなぐもので、将来的に日本の競争力の一つの源泉になるのではないかと考えています。

【パネリスト】

中崎 久雄

大磯町長



介護予防や認知症対策は、大きな企業のない町にとって最重要項目です。大磯町は「おあしす24健康おおいぞ」という事業を展開、6人の保健師・栄養士が町内24全地区を巡回、その回数は6年目で約1000回、延べ参加人口は約1万6000人になりました。足腰の機能低下の予防に向け、東海大学の中村豊教授とアルケアが連携した取組みも開始。産官学の連携が非常にうまくいきました。ロコモ（ロコモを診る・自分で確認する）を特定健診の場を活用して実施し、過去最高の受診率を記録。町民の健康づくりの意識改革が進み、活発な町の動きが出ています。

【パネリスト】

鈴木 輝重

アルケア株式会社 代表取締役社長



アルケアは医療、福祉機器メーカーで、下肢筋力を測る機械を開発していた関係から、大磯町と東海大学が取り組む事業へと参画いたしました。

自助を主体にしたシステムとして、3つのテストで下肢能力を測定するロコモと、アンチロコモ教室というプログラムを開発。特定健診の受診者の60%がロコモのリスクありと判定され、その中の約32%がアンチロコモ教室に参加。そのうち88%に筋力の向上が見られました。定量データでしっかり体の状態を把握すること、住民の参加意識を高めること、持続可能な自助主体の取組みが非常に重要だと考えております。

【パネリスト】

木村 真也

株式会社日本医療データセンター 代表取締役会長



健康年齢は、一種の予測モデルです。性別、年齢など12項目の健康診断のデータをインプットし、個人の翌1年間の医療費を予測します。自分の健康状態が確認でき、同年代の人と比較できる。健康診断の数値は毎年少し変化をしていく。それを健康年齢として表示していったら、努力の結果若返っていることがわかると、自分で獲得した利益は絶対逃したくないといった意欲が湧いてきます。試算では日本人25歳から74歳が頑張ると2歳若くなったら、医療費が1兆円減ります。既に20ぐらいの健保組合でリリースを開始。いろいろ開発を進めていって、実証実験も行っている最中です。

【パネリスト】

市川 喜久江

神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室長

新しい社会システムをつくるための技術・シーズには医薬品、再生・細胞医療、ロボット・サイバニクス、未病産業、金融までさまざまなものがあります。3年間、こうした技術等の産業化に向けたさまざまな支援や標準化を行ってきました。そして、それを実証、検証して、社会的な課題を解決し、それが広がることで次の世代の社会システムをつくっていくことになると考えています。そのための基盤となる取組みとして、資金調達システムの検討や、人材育成等にも取り組んでいます。ヘルスケア・ニューフロンティア全体の取組みを戦略的に進め、より広げていきたいと考えています。

健康・医療データ活用の可能性と課題

塩澤 健康年齢というのは非常に魅力的な概念ですね。

木村 個人にお知らせする「健康年齢通知」が保険者で広がりを見せています。また、健診機関でも、通常の健診結果に加えて健康年齢を表示する試みが始まります。

塩澤 健康データの活用の可能性はいかがでしょうか。

大島 集めるデータとしては、病院、診療所での診療情報、各種検査結果があります。付加的な情報として各種の生活ログも組み入れることで、ビッグデータ解析の基盤になると考えています。市町村ベースですと、既に特定健診、レセプト情報、要介護認定など貴重な情報を持っています。それらの情報をもっと統合的に使えば、さまざまな分析利用ができると思っています。

鈴木 大磯町の事業では、データをどう取得して、どう保管し活用するかに非常に大きなハードルがありました。いわゆる個人情報ですとかセキュリティの問題は、国がリーダーシップを取っていただく都非常にありがたい。

木村 未病改善にはデータを自分で活用することが非常に重要なのですけれども、自分で活用するためのデータがいままではほとんど蓄積されていません。

中崎 特定健診のデータをマスとして扱うことには、やはり個人情報という壁があります。国にお願いしたいのはそのあたりの法整備で、目的をしっかりと定めて、使いやすく進めていただくことです。

市川 県が取組みを進めているマイME-BYOカルテには、健康情報を蓄積しており、医療情報等が入っていませんが、今後、国のデータヘルスの動きなども連携してやっていきたいと考えています。

大島 個人情報保護法は昨年改正されて、来年施行される予定で、医療情報については病歴他、要配慮個人情報というカテゴリに入り、厳しく取り扱うことになります。実際に利用しようとすれば、個人の同意を取るのが一つの方法です。同意を取れば、生の情報を活用することができます。同意がなければ匿名加工処理、匿名化するという処理を施すことになり、匿名化すれば自由に活用できるようになります。ただ匿名化がなかなか難しく、今回の法案の中では匿名



化処理を代わりにやってくれる機関をつくる、そうすれば研究等に必要な情報が安全に流通がしやすくなると考えています。

「やる気」を引き出すシステムづくり

塩澤 新しい社会システムの形成に向け、努力が報われるインセンティブや制度が話題に上りました。

市川 神奈川は全県が国家戦略特区に指定されていますので、特区の枠組みを使って努力した人には保険料を安くする、あるいは努力した健康保険組合の負担を安くするといったインセンティブを提案しています。

鈴木 いかにハイリスクな方々、健診を受診しない方々に来ていただくかです。20～30%ぐらいの健診受診率ということは、70%の人は自分の健康状態さえ把握してないわけで、そこはやはり制度設計が必要だと思えます。

木村 健康年齢を集団で測定して会社名を並べ、「規模は一緒、平均年齢もほぼ一緒だが、なんで健康年齢だけこれだけ違うんだ？」という差を、きれいにランキングできます。それを示すと企業側にすぐに関心を持ってもらえ、実際に動き始めた事例がたくさん出ています。

塩澤 これからの新しい社会システムには、技術革新や産業化が非常に大きな課題になります。

鈴木 大磯町との取組みは実証事業です。今後、収益事業にする上では、ある程度規模を求めていかないと成長していきません。これを日本中にどう展開していくかといったときに、パートナーが必要になります。B to Bの連携を進める場が必要だと思えます。

中崎 大磯町ではスポーツや健康など、何か自分でチャレンジしてみようという大磯チャレンジフェスタがあり、盛況です。民間の力をどう集約していくか、健康産業をどう興していくのかも、行政の仕事だと考えています。

市川 県の未病産業研究会にはいろいろな業種が入っています。異業種の方との交流で新しいイノベーションが生まれ、企業連携が深まると考えています。

大島 個人が効率的に健康分野に出費するような環境をつくっていくには、エビデンスというか、データをきちんと示せることがポイントだと思えます。

未病産業フォーラム 神奈川発「ME-BYOテック」の実現に向けて

パネルディスカッション

【モデレーター】

辻野 晃一郎

アレックス株式会社
代表取締役社長



いま地球レベルでは大変な人口爆発状態、日本は人口減少に転じて超高齢社会の到来ということで、人類が経験したことがない未知のゾーンに入っていく状況であると同時に、大変な勢いでテクノロジーが進化を続けています。昨年開催された未病サミットでは、未病の産業化フレームが提示されました。今日はME-BYOテックについてパネリストの方々に予めテーマをお伝えし、できるだけ具体的なビジネスにつながる展開にはどういう課題があって、どういう市場を生み出していけばいいのか、問題提起をしていきたいと思えます。

【パネリスト】

吉田 宏平

総務省情報流通行政局 情報流通振興課
情報流通高度化推進室長



医療・介護分野でICTの活用のメリットは「ネットワーク化」と「データの活用」です。地域包括ケアの担い手の中で患者情報を共有するとともに、データを活用した新サービスの開発を目指しています。個人の診療データや検査データなど病院由来の情報を共有する基盤であるEHR^(注1)と、個人の運動情報や生活情報などを蓄積・活用するPHR^(注2)を両輪としてデータを連携することで、その時々々の健康状態に基づく最適なサービスを提供できることが一つのゴールです。また、データの二次利用も期待されています。

【パネリスト】

福田 幸弘

TOTO株式会社 上席執行役員 総合研究所 所長



TOTOは「トイレは健康診断室だ」という構想を昔から持っています。健康寿命の延伸に貢献できないかと、特定ガスと腸内健康指標をモニターしたところ、排便の分析から腸内環境が推測できる可能性が出てきました。特定の部位の大腸がんの早期発見もできる可能性が出てきています。トイレの中の分析をクラウドで他のデータと組み合わせることで新たな価値が出て、産業が生み出されるわけで、ぜひ産官学合わせたところで早く実証して、新産業を育成できればと思っています。

(注1) エレクトロニック・ヘルス・レコード (注2) パーソナル・ヘルス・レコード

【パネリスト】

山本 雄士

株式会社ミナケア 代表取締役



ミナケアは健康保険の公的保険者向けの健康サービスの支援事業と、そこから得られた医療データベースを扱う事業をしています。健康投資、投資型医療を実現させることで質の向上とコストの削減を図るのが目的です。すでに幾つかの自治体や企業で医療費の削減に成功しています。今後は幾つかの技術要素、例えばAIを用いたデータの処理能力や使い方のアイデアが重要になります。いま我々が取り組んでいるのは医療が訴求すべき価値との再定義で、それによりイノベーションに取り組んでいただければということを考えています。

【パネリスト】

益満 尚

国際電気通信連合 (ITU) 電気通信開発局



私はITU (国連のICTの専門機関)の本部で働いています。未病におけるICTの重要性はますます言うまでもなく、ICTを活用することで健康寿命が伸び、新たな市場が創出され、医療費が抑制されるといえます。近年、携帯電話を用いたモバイルヘルスが健康の増進や病気の予防のために注目され、世界的に利用が拡大しています。医療データというのは非常に重要なもので、一生使うものですので、ぜひ相互運用性や標準の重要性を十分に認識していただきたいと思っています。

【パネリスト】

パー・オーランド・ハズヴォルド

世界保健機関 (WHO) 非感染性疾患予防部



WHOはITUとの共同イニシアティブで、世界での非感染性疾患の負担削減に取り組んでいます。大規模なモバイルデジタルヘルスプログラムを導入し、非感染性疾患を予防し、モニタリングしていくものです。重要なのは、パートナーシップを結ぶこと。互いに学んで、大きなコンテキストの中の一部となって、地域、世界の健康を改善していきたいと考えています。未病の考え方は、世界のこういった目標をまさに包含したものであり、皆様方の努力にエールを送りたいと思っています。

【パネリスト】

藤澤 恭司

神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室
事業推進担当部長

神奈川県が目指すヘルスケアICTは、個人が中心のヘルスケアを実現することで、健康、安心、生きがいを持続する、社会の基盤となるシステムをつくっていくものです。マイME-BYOカルテのアプリケーションと健康情報のプラットフォームを核にして、さまざまな形での活用を考えています。災害時における活用も検討が始まり、9月からは8つの市町と一緒に電子母子手帳の取組みをスタートさせました。今後は市町村や企業との連携を強化しつつ、マイME-BYOカルテの取組みをさらに進めていきたいと考えています。

世界に向けた神奈川発ME-BYOテック

辻野 神奈川発ME-BYOテックを世界に向けて発信していくために、気を付けておくべきことは何でしょうか。

益満 医療データというのは非常にビジネスになる一方で、公共性がある、一生使うものだと思います。ですから、相互運用性や標準化が非常に大事です。

吉田 得てしてあるのがデータの囲い込み、独自規格をつくって他とのコラボレーションができないといったことです。PHRは国や自治体だけが旗振りするものではなく、企業のいろいろなサービスがどんどん出てくる場所ですので、データのポータビリティ、個人のアクセスが保証され、相互運用性が確保されることが重要です。

藤澤 神奈川県としても、民間に参入していただくためのフィールドとして、マイME-BYOカルテのプラットフォームを活用していただくことが重要だと考えています。

山本 先に国際社会で求められている医療は何かということから考え始めてつづらないと。それを最初の実験フィールドにしたのが神奈川だというスタンスで臨まない限りは、無理だと思うのです。日本はいまのところまだ保険の制度上、病気の治療や診断ということがフォーカスされていますけれども、一般に先進国はそのフェーズを超えていて、予防であるとか、質を上げつつコストをどう下げるのかを考えてますから、そこにストレートに刺さるサービスをつくっていかないとはいけません。



ん。

福田 いまICT、IoTを使っていって事業として成り立つためには、どういう価値を提供して、それはどれだけの効果があるかといったことを早く示す必要があります。日本は医療費が比較的安いものですから、海外の普及のほうが早く、市場として海外に先にいかれてしまうことになりかねないと危惧しています。

健康・医療データの見える化について

辻野 EHRやPHRに関する日本のレベルとといいますか、海外、欧米諸国に比べた見える化のレベルは、どの辺まで来てるのでしょうか。

ハズヴォルド 日本でのこういった医療記録の見える化はまだ不十分だと思います。私はノルウェーの出身ですけれども、もう100%のカバー率で電子化されています。データの二次利用、そういった医療記録を市民にも使えるようにすることで、最近医療データをすべてオープンにしました。

吉田 やっぱり日本はまだまだですね。日本のEHRは、基本的には全国の二次医療圏を中心に制度整備が進んでいます。いま全国で240以上の地域医療圏で情報連携が進んでいます。実際にはそれに参加している医療機関は全体の20%台、小規模の診療所に至っては1桁です。高コスト、あるいはそのメリットが実感できないということで、医療機関が参加せず、地域のエリアカバレッジができていない。さらにその先で本人のデータを載せる同意がなかなか取りにくい状況になっています。

山本 私はちょっと違う見方で、日本のデータの基盤整備はもう十分されていると思っています。いまあるデータ、使えるデータをどう調理するかのレベルでつまづいているのに、基盤整備だ、データ数を増やそうと言っても、おそらく何も出てこないだろうと思うんですね。

ハズヴォルド データの見える化、そしてデータを副次的に使うということでは、リスクの変化に対してこれを検出できるかどうかということが重要です。例えば慢性的な疾患がある人にできるだけ早く介入したい。その疾患がさらに進めば、コストがかかるような治療に入る前の段階で押さえるということが重要性なのです。

藤澤 EHRとPHRは将来的には連携していくことが重要で、

EHRについては医療の現場と地域がしっかりと連携を取っていく必要があります。データヘルス計画自体はほとんどの市町村で取組みが進んでいるが、まだ十分にそれを活用できていません。EHRは医療保険制度とも歩調を合わせていく必要がありますので、国レベルのしっかりとした枠組みが求められます。神奈川県としてはPHRにさまざまな民間のサービスが輻輳的に存在しているので、そこをつなげるようなプラットフォームづくりから事業を始めています。

健康無関心層を動かす仕組みづくり

辻野 自分の病気に対し関心が低い人たちを、ME-BYOの話にどうやって巻き込んでいけばいいのでしょうか。

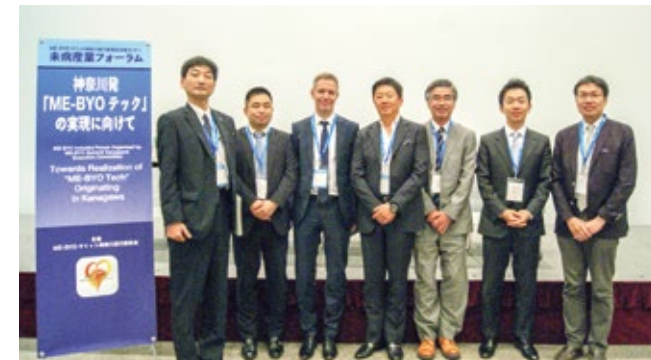
藤澤 いわゆる健康無関心層に向けた取組みは本当に最大の課題です。健康価値が経済価値に具体的に繋がっていく仕組みを、公的なサービスを含めて社会システムの中にビルトインしていく必要があると思います。

辻野 経済格差と健康格差には相関はありますか。

吉田 健康の関心層と無関心層を分けると、7割が無関心層と言われています。無関心層の方々にも確かにいろいろな事情がある。それを動かすための仕掛けをどうやってつくるのか問われています。

山本 糖尿病の健診結果で、これは重症だろう、まずいぞという方のうち、3分の1はそもそも病院に行っていない。誰でも知ってるくらい有名になった病気ですら、そんな状況にあります。健康無関心層は実際には無関心ではなくて、健康に対して何かアクションを取るよりも、他に重要だったり、喫緊の課題があるので動かないというのが実際だと思うのです。そうすると、一個人に対するアプローチでなくて、その方の生活時間に深く関わる環境自体をどう動かすか。家族や職場、お住まいの地域など、コミュニティをベースにして、個々のリスクに合わせたアプローチが大事になると考えています。

ハズヴォルド WHOの宣言には、健康というのはそれ自体がゴールではないとあります。良い健康というものをを用いて、人生をすばらしいものにしていこうということを念頭に



置いておかなければいけません。

益満 他に優先するものがあるから無関心になってしまうというお話ですが、ICTはその敷居を引き下げるものだと思います。スマホなどでもけっこう健康維持に役立ちますし、スマートウォッチもあります。普段家に閉じこもり運動なんか全然しない人たちでも、ポケモンGOを片手に動き回るという行動変化を起こしていますよ。

ME-BYOベンチャーの創出、育成に向けて

福田 私どもは排泄の有効活用をしようとしているのですが、わかるのはそこまでで、そこから先どうやるか、どう改善していくか、要するに見える化だけしていてもダメなのです。それをうまく活用して、改善する別の会社と一緒に組まないとうまく回らない、そのためのシステムを早くつくることが重要です。

辻野 データを収集する側のTOTOと分析する側のミナケアがコラボレーションして、新しいビジネスを起こすといったことは可能性としてあり得ますか。

山本 我々みたいな小さいところが声を掛けられれば、それはもうスキップしながら行きますよ。

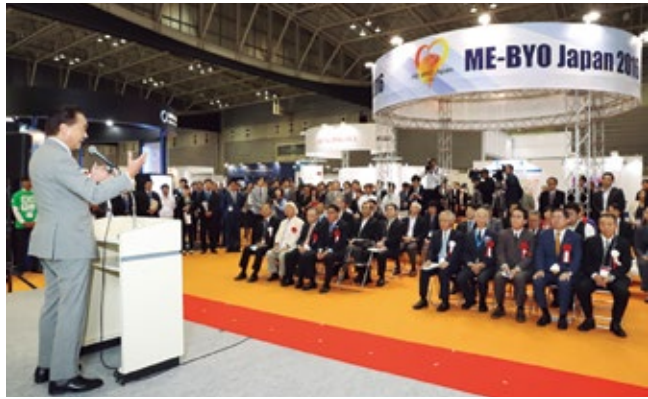
福田 山本さんのような会社が自由に動ける環境をつくるのがまず重要でしょう。個人情報の問題もケアした形での、自由に使いやすい形に事業化されていくデータベースというか、プラットフォームが必要です。

吉田 IT系の企業がどんどん入ってきたときに、実験場的にいろいろなサービス開発ができるテストベッドの環境整備を、国とか自治体がすべきです。例えばME-BYOハウスみたいなところも、一つのテストベッドだと思います。そういう実環境でサービス開発ができるような場をつくってみることが大事です。

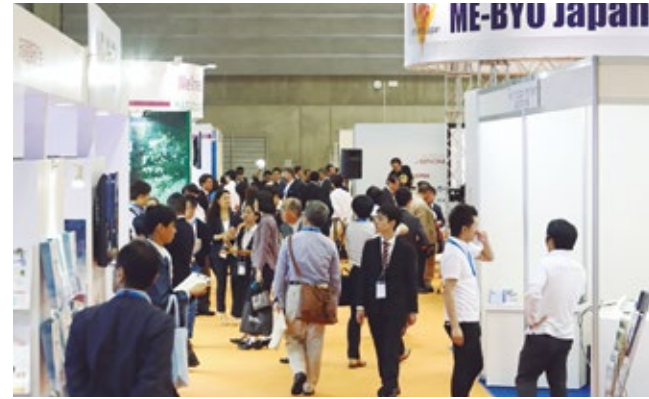
藤澤 神奈川県としても、ヘルスケア・ニューフロンティアの中で、未病産業の創出・促進を図っていきたい。課題としては2つあると考えています。1つ目は実証から市場化の間で資金がショートするという。資金調達支援について、どのような形で支援ができるかを検討している段階です。2つ目はいまテストベッドの話が出ましたけれども、企業が実際に地域でそういったサービスを展開できるフィールドをつくっていきたくて考えており、それに向けての仕組みづくりを検討している段階です。

山本 政府や自治体の側にも、おそらくアイデアを持ち実行力がある人が何人かはいらっしやると思います。これまでは責任を取りきれなくて、とりえず先送りしてきた感がありますので、ここは国や自治体が賭けてみる、張ってみるといような決断ができる人が1人でもおられたらいいと思っています。

ME-BYO Japan 2016



オープニングセレモニー 知事挨拶



展示会の様子

最先端の未病関連サービス・製品が集合!

平成28年10月12日(水)~14日(金)
10:00~17:00
パシフィコ横浜
(BioJapan2016 World Business Forum)



ME-BYO Japan2016 開催実績

出展数
企業・団体 27
アカデミア 6
市町 12
来場者数
15,133名(BioJapan2016来場者)

出展企業等

味の素(株)
イオン(株)
(株)ブルックスホールディングス
(株)NTTドコモ
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
セコム(株)
(株)ディー・エヌ・エー
(株)ファンケルヘルスサイエンス
アルケア(株)
(株)ABC Cooking Studio
NTTアイティ(株)
(株)エムティーアイ
(株)クレディセゾン
KDDI(株)
大和ハウス工業(株)
TOTO(株)
(株)日本医療データセンター

日本調剤(株)
(株)白寿生科学研究所
富士通(株)
富士フィルム(株)
(株)三菱ケミカルホールディングス
湘南口ボケアセンター(株)
富山県
神奈川県未病産業研究会
さがみロボット産業特区
国際電気通信連合

アカデミア

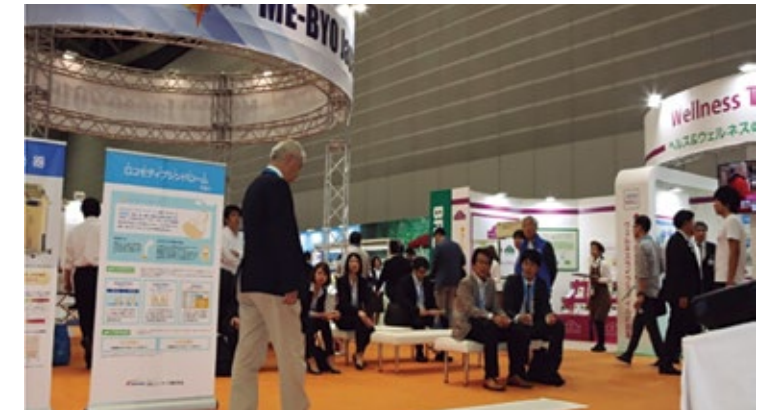
国立研究開発法人理化学研究所
神奈川県衛生研究所
神奈川県立保健福祉大学
横浜市立大学
東海大学大学院医学研究科ライフケアセンター
東京大学COI

企業・アカデミア プレゼンテーション&体験コーナー



プレゼンテーションの様子

多数の企業とアカデミアから未病に関するプレゼンテーションと体験コーナーでの紹介がありました。



体験コーナーの様子(ロコモ度測定)

プレゼンテーション内容

企業	タイトル
味の素(株)	アミノインデックス® 技術を用いたがん高リスク者スクリーニング
(株)ファンケルヘルスサイエンス	未病を叶える「ファンケル健康増進プログラム」と「レストラン事業」
(株)NTTドコモ	病気の予防・早期発見に向けたドコモの取組み
(株)ディー・エヌ・エー	DeNAの健康取組み「スマイル健康プロジェクト」について
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	スマホとTポイントで目指す健康まちづくり 下仁田町プロジェクト実験から見えたこれからの未病
(株)エムティーアイ	ヘルスケアビジネスの将来と可能性
大和ハウス工業(株)(スポーツクラブNAS株式会社)	ロコモ度測定
富山県、(株)廣貫堂、第一薬品工業(株) テイカ製薬(株)、富山小林製薬(株)、富士化学工業(株)	富山県内製薬メーカーのヘルスケア関連製品&富山県での薬用作物の栽培振興・実用化促進の取組み等の紹介
日本調剤(株)	お薬手帳プラスとマイME-BYOカルテの連携と今後の展望
(株)白寿生科学研究所	「未病」に対する白寿の伝統的アプローチと革新
三菱化学(株)	野菜で世界をもっと健康に
KDDI(株)	健診未受診者(状態把握困難者)へのアプローチ支援事例紹介

アカデミア	タイトル
東京大学COI	東大COI拠点が進める未病、予防イノベーション
東海大学大学院医学研究科 ライフケアセンター	東海大学ライフケアセンターが地域と連携して進める未病健康・観光プロジェクト
神奈川県衛生研究所	神奈川県発「化学物質の発がん促進活性検出法(Bhas42)細胞形質転換試験法」の国際標準化への取組み

未病月間の取組み



未病月間の10月を中心に、県内6ヶ所で、市町村や企業などと連携して、健康チェックや最新の未病関連製品・サービスを体験できる「県民フォーラム」を開催するとともに、各地域で開催される健康・産業関連イベント等に未病コンセプトの普及啓発に関するブースを出展する「ME-BYOキャラバン」を実施しました。

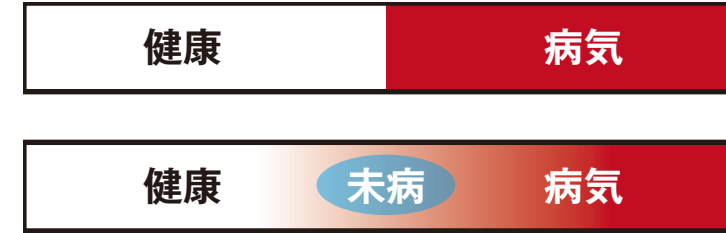
県民フォーラム

日時	イベント名称	会場	主催者
8月20日(土)・21日(日)	未病を改善!! 目指そう生涯現役健康フェア in 横須賀	イオン横須賀店	神奈川県、横須賀市、イオンリテール(株)、県立保健福祉大学
10月30日(日)	ME-BYOフェスタ ~笑いスポーツの祭典~	未病いよしの里センター (仮称)(現ブルックス大井事業所)、いこいの村あしがら	神奈川県、大井町、(株)ブルックスホールディングス
11月5日(土)	ME-BYOサミット神奈川2016 県民フォーラム in 藤沢 (ふじさわ健康フェスティバル2016 in 藤沢地区 オープニングイベント同時開催)	藤沢公民館	神奈川県、藤沢市
11月13日(日)	健康都市やまとフェア2016×未病を改善する県民フォーラム	大和保健福祉センター、イオンモール大和店1階ウオーターコート	神奈川県、大和市
11月15日(火)	かながわ健康長寿フェアinさがみはら	ユニコムプラザさがみはら	神奈川県
11月27日(日)	健康チャレンジフェアかながわ2016	クイーンズスクエア横浜クイーンズサークル	健康チャレンジフェアかながわ実行委員会(事務局 かながわ健康財団)

ME-BYOキャラバン 実施箇所

日時	イベント名称	会場	市町村
5月28日(土)	夏と美の健康フェスティバル	西武東戸塚店	横浜市
6月11日(土)・12日(日)	開成町あじさい祭り	あじさいの里	開成町
7月3日(日)	健康フェスタあいかわ ~愛川健康のまち宣言~	記念式典・記念講演:文化会館ホール 健康イベント:健康プラザ	愛川町
9月18日(日)	ヨガフェスタ横浜2016	パシフィコ横浜	横浜市
10月2日(日)	大磯チャレンジフェスタ2016	大磯運動公園など	大磯町
10月2日(日)	かいせいスポレクフェスティバル2016	開成水辺スポーツ公園	開成町
10月2日(日)	ふれあい広場産業まつり	湯河原町民グラウンド	湯河原町
10月8日(土)	健康応援フェア	イオン海老名店	海老名市
10月9日(日)	星槎箱根 Festival 2016	星槎箱根キャンパス	箱根町
10月9日(日)	町民みなふれあい体育大会	三増公園陸上競技場	愛川町
10月10日(月・祝)	松田スボレク祭り・記念式典	松田中学校グラウンド、町体育館ほか	松田町
10月10日(月・祝)	スポーツデー	寒川総合体育館	寒川町
10月16日(日)	大井町町民体育大会	大井町立湘光中学校グラウンド	大井町
10月15日(土)・16日(日)	HAKOJO MARCHE 2016	箱根やすらぎの森 森のふれあい館横広場	箱根町
10月16日(日)	美・緑なかいフェスティバル2016	中井中央公園	中井町
10月30日(日)	2016あつぎマラソン	厚木市荻野運動公園競技場	厚木市
11月3日(木・祝)	秦野市市民の日	カルチャーパーク	秦野市
11月6日(日)	天狗のこみちマラソンin南足柄	大雄山最乗寺	南足柄市
11月5日(土)・6日(日)	よこすか産業まつり	三笠公園	横須賀市
11月12日(土)	ULVAC Festival 2016	株式会社アルバック本社	茅ヶ崎市
11月12日(土)・13日(日)	海のまち豊漁豊作祭 真鶴龍宮祭	真鶴町岸壁広場	真鶴町
11月13日(日)	湘南にのみやふるさとまつり	二宮町生涯学習センター ラティアン	二宮町
11月19日(土)・20日(日)	第18回城下町おだわらツーデーマーチ	小田原城址公園銅門広場等	小田原市
11月19日(土)	生涯現役講座	神奈川県立保健福祉大学	横須賀市
11月19日(土)	市民健康デー2016	平塚市保健センター	平塚市
11月20日(日)	座間市健康まつり	座間市立座間中学校	座間市
11月23日(水・祝)	山北町産業まつり	山北健康福祉センター駐車場及び鉄道公園	山北町
11月27日(日)	まつだ産業まつり	JR松田駅北口広場・町営臨時駐車場周辺	松田町

What's "ME-BYO(未病)"?



未病…健康と病気を2つの明確に分けられる概念として捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。

「未病」をコンセプトに進める県の取組み ~ヘルスケア・ニューフロンティア~

ヘルスケア・ニューフロンティアとは、超高齢社会の到来という急激な社会変化を乗り越え、誰もが健康で長生きできる社会を目指す神奈川の新たなプロジェクトです。

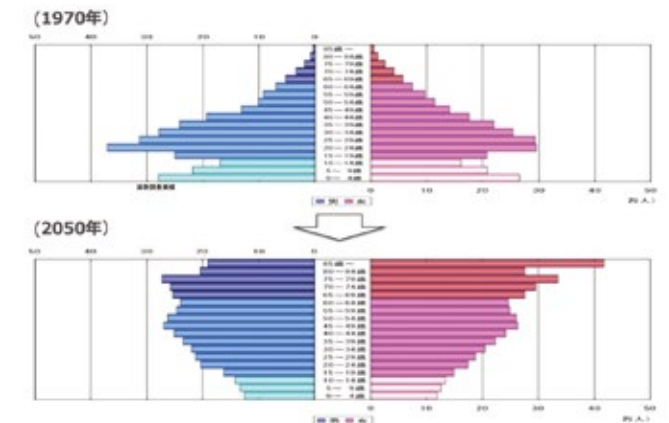
超高齢化という急激な社会構造の変化

● 超高齢社会に向かう神奈川

日本は世界で最も高齢化が進んでおり、特にこの神奈川は全国でも一・二を争うスピードです。そして、速度の違いこそあれ、先進国はすべてこの超高齢社会に向かっていきます。

● 中長期的な改革が必要

このようなかつて経験したことのない社会構造変化の波が押し寄せる中で、現在の社会システムを今後も維持していけるかが試されています。こうした変化を乗り越えるためには、中長期的な改革が必要です。



超高齢社会という課題を 解決するための二つのアプローチ

① 「未病の改善」

心身の状態には、健康と病気、その間に未病という状態(グラデーション部分)があります。健康でありつづけるためには、この未病を改善していく取組みが重要です。

② 「最先端医療・最新技術の追求」

iPS細胞のように、日本には世界をリードする基礎研究が多くあり、これを革新的な医療として実用化していくことが重要です。



国家戦略特区の活用

国家戦略特区を活用し、この二つのアプローチを融合することにより、個別化医療を実現し、健康寿命を延ばし、誰もが健康で長生きできる社会をめざします。また、最先端の医療の分野を切り拓き、未病産業や最先端医

療関連産業など新しいビジネスモデルを生み出して世界に発信します。こうした新たなプロジェクトが「ヘルスケア・ニューフロンティア」の取組みです。

What's ME-BYO BRAND?



ME-BYO BRANDとは

県は、平成27年5月から、未病産業関連の優れた商品・サービスを「ME-BYO BRAND」として認定する制度をスタートさせ、未病産業のブランド化を進めています。

未病の見える化

商品・サービス名(企業名)	概要
MIMOSYS(ミモシス) [®] (PST株式会社)	スマートフォンでの通話を通じて、声から情動、ストレス、抑うつ状態といった心の状態をリアルタイムに認識できるAndroid [®] 向けソフトウェア開発キットです。この商品を活用し、人々が日常生活の中で、自己のメンタルヘルスの状態を簡単に把握できるようになり、自ら行動を起こすことによって、未病を改善することが期待できます。
アミノインデックス [®] (味の素株式会社)	アミノインデックス [®] は、少量の採血で、血液中のアミノ酸濃度のバランスから健康状態やさまざまな病気のリスクを明らかにすることが可能となり、未病の段階から体の状態を手軽に知るなど、「未病の見える化」が期待できます。 アミノインデックス [®] がんリスクスクリーニング(AICS [®])は現在がんである可能性を評価する検査であり、男性は5種(胃、肺、大腸、膵臓、前立腺)、女性は6種(胃、肺、大腸、膵臓、乳、子宮あるいは卵巣)のリスクを評価することができます。
遺伝子検査サービス 「MYCODE(マイコード)」 (株式会社DeNAライフサイエンス)	自宅で唾液を採取し検査機関に郵送することで、疾患や体質の遺伝的な傾向と予防のためのアドバイスを提供する遺伝子検査サービスです。 生活改善プログラム [※] の提供や人間ドック・検診予約サイトとの連携により「未病の見える化」し、未病を改善するための行動変容につながることを期待できます。 [※] 生活改善プログラム 管理栄養士を中心としたアドバイザーが、日々の生活習慣を改善していくサポートを行うプログラムです。
脳梗塞リスク評価サービス (株式会社アミンファーマ研究所)	血液検査によって、自覚症状のない小さな脳梗塞(かくれ脳梗塞)を約85%の精度で検出できる世界初のサービスです。 血中に含まれる毒性の強い細胞傷害物質「アクロレイン」の量を、炎症マーカーのIL-6とCRPと共に測定して、「ローリスク(低値)」「境界値」「ハイリスク(高値)」の3段階で脳梗塞の発症リスクを評価します。脳梗塞の発症リスクを知ることで「未病の見える化」が期待できます。



写真提供：NEDO
(www.nedo.go.jp)

未病の改善

商品・サービス名(企業名)	概要
Plant Plant [™] (三菱化学株式会社)	「Plant Plant [™] 」は、一般の野菜に比べビタミンA、ビタミンK、カリウム、葉酸などの栄養素を多く含むベビーリーフを、同社のグループ全体の高い技術力により、安定的かつ効率的な生産が可能な完全人工光型植物工場です。さらに、同社グループの企業が提供する簡易血液検査「じぶんからだクラブ [※] 」と組み合わせることによって、運動習慣の見直しや食事メニューの効果的な改善につながり、「未病の改善」が期待できます。 [※] じぶんからだクラブ ドラッグストア・薬局の店頭で簡単な採血キットを用いて利用者自身が採血することで、生活習慣病に関連する13の検査項目のセルフチェックが一度にできるサービスです。
ロボットスーツHAL [®] シリーズ及び ロボットスーツを活用した 未病改善トレーニング「HALFIT [®] 」 (湘南ロボケアセンター株式会社・ CYBERDYNE株式会社)	世界初の技術を用いた、装着することで人の動作を支援・補助するサイボーグ型ロボットです。このロボットを用いたトレーニングにより、脳・神経・筋系の疾患患者、フレイルなどの虚弱化していき高齢者等の身体機能が向上し、未病の改善につながることが期待できます。 [※] 対象商品・サービスの詳細 【医療分野】(機能改善・機能再生治療)医療用HAL [®] 【その他分野(非医療)】 (健康維持増進)福祉用HAL [®] 、単関節HAL [®] 、HALFIT [®] (腰痛防止)介護支援用HAL [®] 、作業支援用HAL [®]



Prof. Sankai, University of
Tsukuba /CYBERDYNE Inc.

マイME-BYOカルテ



「マイME-BYOカルテ」の利用はこちらから



まいみびようかるて 検索



アクセス後は画面の指示に従い、必要な情報をご記入・登録の上、ご利用ください。

「マイME-BYOカルテ」とは

神奈川県が運営する、あなたや家族のお薬情報や健康情報等をパソコンやスマートフォンを通じて閲覧できるアプリケーションです。さまざまな健康情報等を一覧にして“見える化”するので、心身の状態の維持・改善に活用できます。

健康管理に活用できます

身長や体重をはじめ、これまでにかかった病気や服用したお薬、健診結果、母子健康情報、疲労、ストレス、アレルギー情報などが一覧化でき、日々の健康管理に活用できます。

災害時などのいざというときもあんしん

災害が起こったときにお薬手帳などが無くなり、普段、服用している薬の名前や種類が分からなくなったときでも、この「マイME-BYOカルテ」を通じて、お薬情報がスマートフォンなどで確認できます。

未病サミット神奈川宣言

神奈川県は世界でも例を見ない程のスピードで進む超高齢社会に直面しており、私たちは、これまでの社会システムでは立ち行かないという共通の危機感を有している。

この大きな課題を乗り越えるために、私たちはここ神奈川・箱根の地で、健康と病気の間で連続的に変化する状態である未病を基軸に、新たなヘルスケア・社会システムのあり方について議論を行い、次の取組みを推進し、世界に向けて発信することで一致した。

- 病気になって初めて行動を起こすのではなく、将来の自己のために、日常生活の中で自分の未病状態をチェックし、心身の状態の改善・維持に主体的に取り組むという行動変革を起こす。
- こうした個人の行動変革を、学術・医療・産業・行政など多様な分野の主体が積極的に支えるとともに、これらを担う人材育成を行う。また、新たなヘルスケア・社会システムを実現する様々な先進技術の追求や未病の科学的なエビデンスの確立により、この動きを加速させる。
- そして、個人の未病状態の改善・維持に取り組むための行動の選択権と決定権は、受益者であり負担者でもある自己に帰属するという考えを基本とした、持続性ある新たな社会システムの形成を目指す。

我々は、未病を基軸としたこれらの取組みこそが、超高齢社会という人類共通の課題を乗り越えるモデルであることを、世界に向けて、ここに宣言する。

2015年10月23日

ME-BYO サミット神奈川 2016 協賛企業 Official Sponsors

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

AEON

BROOK'S
おいしさのその先へ

NTT
docomo

CCC
Culture Convenience Club Co., Ltd.

信頼される安心を、社会へ。
SECOM

DeNA

FANCL
ヘルスサイエンス

ALCARE

ABC Cooking Studio

NTTIT

エムティーアイ

川本工業

SAISON
GARD
INTERNATIONAL
Credit Saison Co., Ltd.

KDDI

Daiwa House

TOTO

Japan Medical Data Centers

日本調剤

白寿生科学研究所

FUJITSU

FUJIFILM

三菱ケミカルホールディングス

inet

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

足柄クリーンサービス

Wellup

OMRON

kao
自然と調和する。こころ豊かな毎日をめざして

医療法人 健育会

ケンコム
Japan

CYBERDYNE

鈴廣みまほ

スルガ銀行

タカナシ乳業

東京海上日動

ZEON

MIZUHO
みずほフィナンシャルグループ

横浜銀行 | **CONCORDIA**

お問い合わせ
「ME-BYOサミット神奈川」実行委員会
神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室
TEL 045-210-2715 FAX 045-210-8865